＜小学校　体育＞

リズムダンスの楽しさを味わう学習指導の工夫

－選曲や場の設定，支援の仕方を通して－

豊見城市立豊見城小学校教諭　**花城　みどり**

内容要約

リズムダンスの楽しさを味わわせるために，児童がのりやすい曲の選定や，場の設定，教師の指導や支援（声かけ）の方法を研究した。導入で体ほぐしの運動を取り入れたり，踊りたくなるような場を工夫していくことで，踊ることへの抵抗感や苦手意識を取り除くことができ，リズムダンスを楽しむことができた。

【キーワード】選曲　リズム　おへそ　のり　心身の開放　場の設定　教師の指導・支援

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 41

Ⅱ　研究内容 …… 41
1　リズムダンスとは …… 41
2　リズムダンスにおける教師の指導・支援のあり方 …… 43
3　単元の進め方 …… 44

Ⅲ　授業実践 …… 45
1　単元名 …… 45
2　教材観（中学年の児童とリズムダンス） …… 45
3　児童の実態 …… 46
4　学習の活動計画 …… 46
5　本時の指導計画 …… 48

Ⅳ　研究全体の考察 …… 49
1　研究仮説の検証 …… 49
2　アンケート結果から見る児童の変容 …… 50

Ⅴ　研究の成果と今後の課題 …… 50
1　研究の成果 …… 50
2　今後の課題 …… 50

＜小学校　体育＞

リズムダンスの楽しさを味わう学習指導の工夫

－選曲や場の設定，支援の仕方を通して－

豊見城市立豊見城小学校教諭　花　城　みどり

Ⅰ　テーマ設定の理由

新学習指導要領には，学習内容の厳選という今回の改訂にあって，小学校中学年の表現運動の領域に「リズムダンス」が新たに導入された。それは，ダンス学習が，「心と体を一体としてとらえる」という体育科改訂の趣旨を生かす内容であり，特にリズムダンスは「体ほぐしの運動」とともに，「子どもにとってやさしい」「体を動かす楽しさや心地よさを体験させる」「仲間との豊かな関わり合い」を目指す運動として注目されているからである。さらに，学習内容の広がりは，社会で多種多様なダンスが多くの人に享受されている生涯学習の方向に対応したものと捉えられている。

リズムダンスは，ロック，サンバなどのリズムにのって，リズムのとり方や動きを工夫したり，仲間との交流を工夫したりして，全身でリズムをとらえて踊ることが楽しいダンスである。しかし，学校現場で取り上げられている表現運動といえば，運動会，学芸会の集団演技（エイサー等）や，修学旅行のフォークダンス等である。これらは，行事の一環として取り上げていることが多く，体育の一単元として「リズムダンス」を実践している例は少ない。それは，教師が音楽のジャンルを選別する方法や，そのダンスを踊るために必要な支援の仕方等をまだ身に付けていないためと捉えている。また児童にとっては，人前で踊ることに抵抗があり，動きがぎこちなくなったり，恥ずかしさから自由な変身の楽しさを阻むことがあるので十分に楽しさを味わうことが出来ない。

一方リズムダンスは，近年のダンスブームを反映してマスメディアやイベントを通して目にしたり，既成のリズムダンスは運動会でもよく取り上げられていることから，身近なものになりつつある。さらに，ダンス経験の少ない児童にダンスを指導する場合や，教師にダンスの専門知識がない場合にほかのダンス単元よりもリズムダンスは取り組みやすい。それは，沖縄の「カチャーシー」のように，人間はリズムに誘発されて心がほぐれると，自然に体が動き周りと一体となって踊る楽しさを知っているからである。

そこで今回の研究では，児童がのりやすい曲の選定や場の設定と，教師の支援（声かけ等）により，児童の心と体をほぐし，楽しく踊ることをねらいとした。授業の工夫・改善点として，教師や仲間と積極的に交流する場を設定したり，体ほぐしからリズムダンスへのスムーズな流れにすることで，体を動かすこと，踊ることへの抵抗感をなくし，リズムダンスへの苦手意識を取り除いていきたい。また，それぞれの基本的なステップや動きに触れることで，即興でも楽しく踊れるようにしたいと考え本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

児童がのりやすい曲の選定や，踊りたくなるような場を設定し，適切な声かけの支援と動きのバリエーションを提示すれば，児童の心と体をほぐし，リズムダンスを楽しむことができるであろう。

Ⅱ　研究内容

1　リズムダンスとは

(1)　新学習指導要領における位置づけ

新学習指導要領の改訂で表現運動については，小学校中学年に「リズムダンス」，中学校・高等学校に「現代的なリズムのダンス」が新たに導入された。また，小学校高学年においても，地域や学校の実態に応じて加えて指導できることになっている。それは，ダンス学習が今回の改訂の趣旨を生かす内容であり，特に，リズムダンスは「体ほぐしの運動」との関連で，心と体を一体と捉えて健全な成長を促す可能性があると期待されているからである。

(2)　リズムダンスの分類

①　即興的リズムダンス

音楽に合わせて自由に思いつくままに踊るダンスのことである。他の人と話し合ったり作ったりということが少ないから，たとえグループの活動になったとしても，一人で踊ることが中心となる。

この即興的リズムダンスがいくら簡単に特性を味わうことができるといっても，今まで経験のない小学校高学年の児童にリズムダンスを行わせる場合，心身の開放に大変な労力を要する。しかしながら，リズムののり方や動きなど，技術の善し悪しを問わずに，自由に踊る楽しさを味わうことは，いろいろなダンスをしていくための基本であり，このダンスの特性を味わっておくと，ほかのダンスもスムーズに取り組める。したがって，発達段階から見て心身の開放が比較的しやすい小学校の低・中学年からこのリズムダンスを取り扱うことは大切なことである。

②　作品的リズムダンス

曲を決め，曲にあわせて，グループで振り付けをして踊って楽しむダンスである。これは心身の開放ができていない児童にとっても，仲間や教師の真似をすればいいため，比較的簡単に取りかかれるメリットがある。一方，作品完成には相当の時間と努力が必要な上，良い作品作りを目指すには，かなり高度な技術がないと満足できない。結果的には難しく，話し合いに時間がかかり，教師に知識や技術がないと，特性に触れさせにくい。小学校のリズムダンスは「即興的リズムダンス」が主に取り上げられ，中学校で現代的なリズムのダンスという単元で，「作品的リズムダンス」を取り上げている。

(3)　リズムダンスの音楽

①リズムダンスの特徴と動き

表１　リズムの特徴と動き方のポイント

リズムと特徴	動き方のポイント	声かけの例
ロック リズムにのりやすく，自由に弾んで踊る	○リズムに同調して全身でリズムを捉えてその場で弾んだり，スキップしたりして移動を加えて踊る ○友達と手をつないで回ったり，手をたたき合ったりして踊る ○アフタービート（後打ち）のリズムでアクセントをつけて踊ったり，回る，跳ぶなどの動きで変化をつけたりして相手と対応して踊る	・おへそを動かそう・スキップしてみよう・ジャーンプ・ジャンプして回ろう・友達と手をつないで回ってみよう・クロールで泳いでみよう・背中合わせで踊ってみよう・ドリブルやシュートをしよう・転がってみよう・窓ふきしてみよう
サンバ ４分の２拍子で，揺れ続けて踊る	○ロックと同様にリズムに同調して弾んで踊ったり，動きにアクセントや変化をつけたり，相手との対応の仕方を工夫して踊る ○腰（へそ）の前後揺れのサンバ特有のステップで，シンコペーションのリズムの特徴をつかんで踊る	・おへそを前後に動かしてみよう・サンバステップしようね左右左，右左右，左右左・手の動きも入れてみようクネクネクネ・肩を動かしてみよう・バスケのピボットできるかな
ヒップホップ バネを使って縦の起伏の大きな動きで踊る	○強いビートを体幹部で捉えて「縦ノリ」のリズムで踊る上下のダウンのビートにアクセントをつけて踊る ○ゆっくりな曲のテンポに対して動きは倍のテンポで踊る ○１拍子ごとに動きを止めてロボットのように動いたり，床を使った回転する動きや移動を取り入れ，動きに変化をつけて踊る	・おへそは上下に動かそう・上半身の力をぬいてみよう・バスケのディフェスしてみよう・ボックスステップしてみよう・二人組で鏡になってみよう・キックを入れよう・ポーズをとってみよう・指差ししよう

② リズムダンスの選曲

児童は音楽が流れると，いつの間にか自分の体の感じるままにリズムを刻んでいる。まさに体からわき出るリズムである。それらを引き出すきっかけになっている一つがリズムダンス運動で取り上げる曲である。リズムダンスで使用する曲の選定はその後の学習活動を左右すると言っても過言ではない。児童にとって初めて聞く新鮮な曲や，流行の曲，人気のある歌手の曲，動きやすい曲など児童の実態をよく判断してリズムダンスの選曲をする必要がある。また，児童からリクエストを受けた曲や，沖縄民謡をロックやサンバ風にアレンジした曲を取り入れることも，児童の関心を高めるために有効である。

2 リズムダンスにおける教師の指導・支援のあり方

リズムダンスの指導において，ややもすると教師が一方的に振りを与えてしまったり，動きの順番を決めたり，そろえた動きを強制してしまいがちである。既成のステップや特定のパターンを覚えて踊ることにこだわらずに，動きの習得にあまり時間をかけないで，踊りの楽しさや喜びを味わわせたい。そこで，留意点として以下の３つを挙げる。

(1) はじめは教師のリードで行う

最初は教師のリードでみんなで一緒にリズムにのって踊る。その際，単純な動きや，移動したりしながらおへそでリズムをとることを指導する。ここでの指導が次時以降の活動のヒントになってくるので，様々な動きを紹介する。まず座ってリズムをとる活動から，立って全身で弾んだり，スポーツや身近な生活の動きを取り入れたりして，教師がリードして踊る展開を工夫する。

(2) 児童の心と体に響く指導の声かけ

リズムダンスにおける声かけは，「心身をときほぐして踊る気持ちにさせる言葉」「友達との関わり合いや活動に関する言葉」「リズムにのるための言葉」「いろいろな動きを見つけるヒント」等の役割がある。声かけは児童のスムーズな動きを引き出すためにとても重要であるが，声をかけるタイミングや動作を入れながら笑顔で声かけすることなどがポイントである。（表１参照）

(3) リズムダンス指導のポイント

① リズムにのるポイント

リズムにのって踊るポイントは，体幹部を中心に全身で弾むように踊ることである。足だけでなく全身柔らかく踊れるように留意する。おへそを動かす練習をしてから踊るようにする。

② 友達と感じ合って踊るコミュニケーション形態

友達と組んで踊ると楽しさも倍増し，同時にいろいろな動きを発見する契機となる。二人組から児童の力に応じた人数規模で誰とでも踊れるようにする。学習カードで前もってペアになる友達を決めておき，毎時間違う子と踊るようにしてできるだけ多くの友達と関われるようにしておく。

③ 場の開放，空間の開放

心と体の解放は場や空間の開放と大きく関わる。体操隊形で全員が教師の方を向いた示範型の授業では，無意識に心と体も拘束し，自由にはならない。思い切り移動して，空間をかき回す感じで動くと，いつの間にか恥ずかしさも消えて開放的な空間になる。導入やまとめの隊形もコの字型で親しみやすい隊形を心がける。体育館を４つのエリアに分けてみんなで移動しながら大きく動くようにする。

④ 一曲踊りきる満足感

何呼間とか，カウントとかで細切れにしないで一気に一曲踊りきる満足感とまとまりが大切である。間違ってもごまかす気楽さを持たせる。踊り続けることで気分だけでなく動きもどんどん自然に出てくるようになる。自然にでるまでは，教師の方でヒントを与えるなど声かけしながら踊らせる。しかし，児童の反応が良くない場合は，思い切って次の曲へ進めた方がよい。

⑤ 最大の上達法は踊りに慣れること

心身を開放して思い切り踊る体験ができれば，児童は飛躍的に上手になる。めあて①の場面で教師が踊りのバリエーションを提示することによって抵抗がなくなり，いつの間にか様々な動きが身

に付き，踊りにも慣れていく。

⑥ **いろいろな場面への応用**

授業でリズムののり方の基本を学習すれば，後は短時間でもいろいろな場面（運動会やイベントなど）に応用できる。

(4) 場の工夫

児童が楽しく踊るための場の工夫として主に次の４つを行う。

① 体育館を４つのリズムエリアに分ける。(ﾛｯｸｴﾘｱ,ﾋｯﾌﾟﾎｯﾌﾟｴﾘｱ,ｻﾝﾊﾞｴﾘｱ，沖縄ｴﾘｱ)

② バンダナやまめしぼりを頭に巻くことで，場の雰囲気を盛り上げる。

③ 体育館中央に簡易舞台を設置し，交流会ではその上で踊らせるようにする。

④ 次時の導入で意欲付けの場を設定するため，学習カードに「今日のＭＶＰ」を書かせる。

３ 単元の進め方

(1) 基本的な進め方

小学校の初歩的な段階においては，導入で体ほぐし運動を取り入れて心と体をほぐすことから始める。そして「めあて①－リズムにのって簡単なのり方で友達と自由に踊って楽しむ」から「めあて②－リズムの特徴を生かし，友達とオリジナルな動きを作って楽しむ 」を行い，最後は交流会につなげる。このような「スパイラル型」で「自由で即興的な活動」を中心に構成する。

① 体ほぐし運動で心ほぐし

学習のスタートは，友達と気軽にふれあい，関わり合う活動を通して心と体をほぐすことが大切である。リズムを共有して踊るリズムダンスは，体ほぐしと重なる部分が多く，一曲踊れば心も体も軽くなる。しかし，踊ることに抵抗がある場合には，体ほぐし運動を導入で取り入れて，心と体をほぐす必要がある。

ア 円形コミュニケーション

円形はみんなが平等で一つになって交流できる隊形で，体ほぐしのスタートに適した隊形である。みんながつながること，全員が向かい合い顔を見合わせることが，一体感につながっていく。教師も輪の中に入って一緒に活動するようにする。

イ パワーを引き出す体ほぐし運動

授業の導入は，日常の自分を離れ，リズムダンスの世界へ入っていく大切な場面である。体ほぐしの運動によって児童が心身を開放し，パワーを出し切れるような自由な雰囲気を生み出すようにする。心と体の解放は，場や空間の開放と大きく関係する。ダイナミックに移動して空間をかき回す感じで動くといつの間にか照れや恥ずかしさも消え開放的な気分になる。そこで，児童が全力を出して，友達と一緒に走り回る「人間列車」等の活動を取り入れていく。

ウ 二人組コミュニケーション

二人組で触れ合いながら会話をしながら，体と心をほぐす運動である。互いに補助し合いながら行うリラクゼーションとストレッチングは，力を抜くこと，相手に応じた力の加減を考えて心を込めて行うことがポイントである。この場面では静かで癒される曲を使いたい。

② めあて１

リズムや曲調の異なる３～４曲（ロック，サンバ，ヒップホップ，沖縄風等）をメドレーで取り上げ，教師やリーダーの動きで踊ったり，児童の自由な動きでリズムにのったりして楽しむようにする。このとき，基本的なステップやリズムの特徴をつかませる。

③ めあて２

その時間のテーマとして取り上げるリズムの特徴を生かせるのり方や動きを工夫して，二人組から小グループでめあて①をさらに深めた「のり」を楽しむようにする。ここでは，何呼間の動きとか考えて作る動きに追い込むのではなく，めあて①と同様に即興的な活動を中心に進めていくようにする。

④ ダンスパーティー（交流会）

リズムダンスは，「見せる・見る」よりは「一緒に踊る」方が特性が生きる参加型ダンスである。創作ダンスの見せ合いや発表会に代わる活動として「ダンスパーティー（交流会）」が学習を進める上での重要な意味を持ってくる。毎時間のまとめの部分に「ダンスパーティー（交流会）」を設定し，２人組，３人組，グループで創作したオリジナルな踊りを交流する場として，全体で円になり，簡易舞台を設置して行うこととする。

⑤ ダンスカーニバル（発表会）

第５時は，すでに心身の開放ができているので，単元のまとめとしてダンスカーニバル（発表会）を設定した。めあて②で取り上げた曲の中から一番好きなものを選び，曲ごとにグループを作ってダンスを創作していく。ダンスを作る過程を楽しませ，できたところまでを披露し，学習の成果を認め合いながらダンスの楽しさを分かち合う。

(2) 単元計画（学習の進め方）

時	１時	２時	３時	４時	５時
ﾘｽﾞﾑ	ロック	ロック（沖縄風）	サンバ（サルサ）	ヒップホップ	自由
形態	２人組	３人組	自由	男女混成	自由
0 授業の流れ 45	体ほぐしの運動 めあて① いろいろなリズムにのって，友達と自由に踊ったり，簡単な動きを覚えて楽しむ （曲調の異なる３～４曲を取り上げて） ・教師やリーダーと一緒にリズムにのって踊る ・曲ごとに踊る相手を替えたり，場を移動したりしてリズムにのって踊る ・基本的なステップや動きを覚える めあて②リズムの特徴を生かし，のり方を工夫して友達とオリジナルな動きを作って楽しむ （その時間中心となるリズムや曲で） ・リズムや特徴を生かしたワンポイント工夫（みんなや教師と一緒に） ・２～４人のグループで簡単なのり方や動きを工夫して踊る ダンスパーティー（交流会）				グループ練習 ダンスカーニバル 振り返りをする

Ⅲ 授業実践

1 単元名 「リズムダンス」

2 教材観（中学年の児童とリズムダンス）

中学年の児童はエネルギッシュに活動する時期である。ゆえに，リズムダンスによって軽快なリズムにのり，思い切り体を動かす楽しさを味わうのに適している。しかし，リズムダンスに慣れていない段階では，活動のイメージが持てず，全身で弾んで踊ることに照れを感じたり，リズムにのれなかったりする場合もある。そこで中学年の児童がリズムダンスとよりよい出会いができるように，児童の状況に応じて柔軟に単元を構成し，単元を通して授業の導入に「体ほぐしの運動」を入れたり，教師とともにリズムにのる練習をしたりして，児童が簡単な動きで楽しく踊れるようにする。

3　児童の実態

(1)　本学級（３年３組）の実態

本学級は，低学年の頃運動会や学芸会でリズムダンスを経験している。しかし，既成のダンスは踊っているが，自分で考えた踊りを自由に踊るという経験がない。そのため，本当に踊れるのかと不安に思っている子も多い。女子は全体的におとなしい子が多く，積極的にみんなの前でダンスすることには強い抵抗感がある。男子は明るく活発な子が多いが，気が短い子が数人いるためもめ事が起こりやすい。このことから友達との関わり方を工夫する必要がある。事前にリズムダンスアンケートを実施したが学級全体で見ると**好き領域（大好き・好き）は39%，嫌い領域（嫌い・大嫌い）は61%** であった。また，男女別に見てみると**男子は好き領域15%**に対して**女子は55%**で半数を超えている。このことからリズムダンスは男女で評価が分かれる単元であると言える。好き領域の主な理由としては，「友達と自由に関わって踊ることが楽しいから」「自分の好きな動きで自由に踊ることが楽しいから」と続く。嫌い領域の主な理由としては，「どう踊っていいかわからない。」「友達に動きを笑われるのが嫌だから」が上位を占めた。これは，相手に自分がどう見られているか，笑われないだろうか等，自分自身のことより相手からどう思われるかを気にしている傾向があると言える。また，「楽しく学習するためにどんなことに気をつけるといいですか」の問いには「喧嘩しない」「文句言わない」などがあり，ダンスそのものより学級内の友達との関わり方が気になっている。つまり，学習の中で友達との関わり方を工夫，改善することでリズムダンス本来の特性としての「楽しさ」にも触れ，嫌いな子が好きになる可能性を持っている状況であると言える。

4　学習の活動計画

	学習内容・活動	●教師の支援☆評価規準,【観点】,〈方法〉	手だて◎Aの子へ△Cの子へ
はじめ 10	1　オリエンテーション (1)リズムダンスのねらいについて確認する ○目標とする子ども像，活動状況を３つの観点からそれぞれの目指す子を提示し，確認する ・「友達と認め合い，楽しくダンスができる子」　【関・意・態】 ・「友達と曲にあった踊りが工夫できる子」【思考】 ・「全身でリズムをとらえて自由に踊れる子」【技能】 (2) 学習の進め方について確認する ○学習のめあて①②の進め方　○交流会の持ち方 ○学習カードの使い方 (3) 学習の場作りについて確認する	●目標となる姿が児童に具体的に見えるような例示を出す ●リズムダンスはリズム感があるなしではなく，リズムに合わせて体を動かすこと自体が楽しいことを押さえる ●学習カードの記入例を示し，毎時間書き残すようにする	
なか 35 × 1	2　体ほぐし (1) 円形コミュニケーション (2) パワーを引き出す体ほぐし運動 (3) 二人組コミュニケーション 3　リズムダンスってなんだろう ○おへそでリズムをとることを確認し，座って練習してみる	●軽快な音楽を流しリズムに合わせて体ほぐしのゲームを進めるようにする ●(3) では二人組のリラクゼーションを行うので静かで癒し系の音楽を流す ●おへそを意識して動かすことで，体全体が動いてくることを体感させる	
	4 **めあて①　いろいろなリズムにのって，友達と自由に踊ったり，簡単な動きを覚えたりして楽しむ** ○リズムや曲調の異なる３～４曲（ロック，サンバ，ヒップホップ，沖縄風の曲）をメドレーで取り上げ，教師やリーダーの動	●教師も自らリズムにのりダンスを楽しみ，児童と一体感で進める	◎いろいろなステップに挑戦させる

	きで踊ったり児童の自由な動きでリズムにのったりして楽しむようにする ○基本的なステップやリズムの特徴をつかむ	☆リズムダンスに興味を持ち，リズムにのり，踊りを楽しもうとしている 【関・意・態】　〈観察・学習カード〉 ●動きがわからない子，活動が止まっている子へは声かけをし，動きのヒントを与える	△個別指導で動きのヒントを与える
な か 45 × 3	5 めあて②　リズムの特徴を生かし，のり方を工夫して，友達とオリジナルな動きを作って楽しむ ○その時間のテーマとして取り上げるリズムで，のり方や動きを工夫して楽しむ ○二人組→三人組→男女混成→自由な人数と，毎時間ごとにパートナーを替えて互いに工夫し合って楽しく踊る ○テーマにあった踊りを2～3つ作って楽しむ（交流会へ） ・1時『ロック』→2人組　・2時『沖縄風』→3人組 ・3時『サンバ』自由な人数・4時『ヒップホップ』→男女混成 6　ダンスパーティー（交流会） ○めあて2で作った動きをみんなに紹介し合う ○リーダー（今日のグループ）の動きやリズムののり方をみんなで模倣し合う ○リーダーは次々交替して踊る 7　反省・まとめ ○今日楽しかったリズムダンスについて話し合う ○次回へつなげるヒントやリズムののり方について出し合う ○学習カードに記入する 8　ダンスカーニバルに向けてのグループ練習 ○第4時までにおどったリズムから一番好きな音楽でグループを編成し，協力してダンスを作る	☆練習の仕方や動きの工夫をし，お互いの個性や踊りを認め合ってみんなと仲良く踊ろうと工夫をしている 【思考・判断】〈観察・学習カード〉 ☆リズムのとり方や動きを工夫して，全身でリズムをとらえ自由に踊ることができる 【運動の技能】〈観察・学習カード〉 ●自己についてふり返らせるとともに仲間からの評価も積極に生かすようにする	◎できるだけたくさんの動きを作らせる △友達の動きを真似させる ◎他のグループとも交流させる △仲良くできなかったら教師が間に入って一緒に踊る ◎難度の高い動きやステップに挑戦させる △おへその動かし方を個別指導し，リズムにあった動きを紹介する
まとめ 45 × 1	9　ダンスカーニバル ○グループで作ったダンスを発表する 10　単元のまとめ ○リズムダンスを通してダンスの楽しさや動きの工夫などについて考えたこと，思ったことを出し合う ○学習カードに記入する	●一曲完成させるのではなく，できるところまででいいことを押さえる ☆友達と協力して楽しくおどっている 【関・意・態】　〈観察・学習カード〉 ☆リズムの特徴をつかみ，全身で弾むようにおどっている 【運動の技能】　〈観察・学習カード〉	◎隊形移動や，ポーズの組み合わせ方も工夫させる △友達の動きをまねさせる ◎△うまくいっているグループをみんなの前で褒めて意欲を喚起する ◎△リズムの特徴をつかんでいる子を挙げて，正しいのり方をつかませる

5　本時の指導計画　（3／5時間）

(1)　単元名　「リズムダンス」

(2)　本時の指導目標

①　いろいろなリズムにのって，友達と自由に踊ったり，簡単な動きを覚えたりして楽しむ。【関・意・態】

②　のり方を工夫して,グループでオリジナルの動きを作ることができる。【思・判】

(3)　授業仮説

児童がのりやすい曲や，簡易舞台を使用し，適切な声かけの支援といろいろなステップを提示すれば，のり方を工夫した動きを作ったり，心と体をほぐしてリズムダンスを楽しむことができるであろう。

(4)　本時の展開

	学習内容・活動	●教師の支援　☆評価規準,【観点】,〈方法〉
はじめ 8	1　前時のＭＶＰ発表 2　体ほぐしの運動 ・人間列車 ・進化じゃんけんゲーム	●選ばれた理由をあげて，本時の意欲につなげる ●運動にあった音楽を流し，楽しく活動できる場にする
な か 32	3 めあて①　いろいろなリズムにのって，友達と自由に踊ったり，簡単な動きを覚えたりして楽しむ ○ロック→沖縄風→サンバ→ヒップホップのリズムに合わせてリーダーや教師といっしょに踊る ○基本的なステップやのり方の特徴をつかむ	●教師も児童といっしょに体を動かす ☆リズムダンスに関心を持ち，踊りを楽しもうとしている 【関・意・態】〈観察・学習カード〉
	4 めあて②　サンバ（サルサ）のリズムで特徴を生かしたのり方を工夫して友達とオリジナルな動きを作って楽しむ ○サルサのリズムで自由に体を動かして楽しく踊る ○グループでサルサのリズムに合わせた踊りを考えて，オリジナルな踊りを２～３つ作る ○ほかのグループへ見せ合ったりして，お互いの良さを認め合い，高め合う。 5　ダンスパーティー（交流会） ○楽しく踊れた動きをみんなに紹介し合う ○それぞれが順番にリーダーになり動きやリズムののり方を模倣し合う 	 ●動きがわからない子，活動が止まっている子へは踊り方のヒントを与える ☆練習の仕方や動きの工夫をしている 【思考・判断】　〈観察・学習カード〉 ☆リズムのとり方や動きを工夫して全身でリズムをとらえて自由に踊ることができる 【技能】　〈観察・学習カード〉
まとめ 5	6　反省　まとめ ○今日のリズムダンスについて楽しかったことを話し合う ○次回へつなげる踊りのヒントやリズムののり方について出し合う ○学習カードに記入する	●自己についてふり返るとともに友達からの評価も積極的に生かすようにする

(5)　授業の分析と考察　（授業仮説の検証）

のり方を工夫し，リズムダンスを楽しんでいたか。

めあて①の場面では，児童が動きやすいように身近なスポーツの動き（バスケのディフェンス等）や，日常生活の簡単な動き（掃除，料理）でリズムに合わせて踊るように声かけしたので児童もスムーズに踊り始めることができた。また，サルサやヒップホップの簡単なステップも，教師の真似をしていくうちに自然に身に付いていた。そのため，めあて②のグループでオリジナルな動きを作る場面では，サルサのリズムに合う工夫した動きで踊ることができた。

リズムダンスを楽しませるために選曲に留意した。事前に数曲聞かせた中から踊ってみたいという曲を取り上げた。使用した曲は，テレビアニメのテーマソングや，コマーシャルソング，また沖縄民謡をサルサ風にアレンジした曲など，どの曲もアップテンポで，耳馴染みのある曲を選んだ。その結果，本時はのりやすい曲で楽しそうに踊っている姿が見られた。次に場の工夫として体育館中央に簡易舞台を設置した。それをダンスパーティーの時にリーダーが踊る場として活用したことで，どの児童も躊躇することなく喜んで舞台に上がり，自分たちの考えたリズムダンスを披露することができた。また，学習カードの「**今日のリズムダンスは楽しかったか**」の問いには**４段階評価**（4-とても楽しんだ 3-楽しんだ 2-あまり楽しんでいない 1-楽しんでいない）で，**31人中28人が「４」，３人が「３」**としていた。以上の結果から本時の授業では，児童がのり方を工夫し，リズムダンスを楽しむことができたと判断できる。

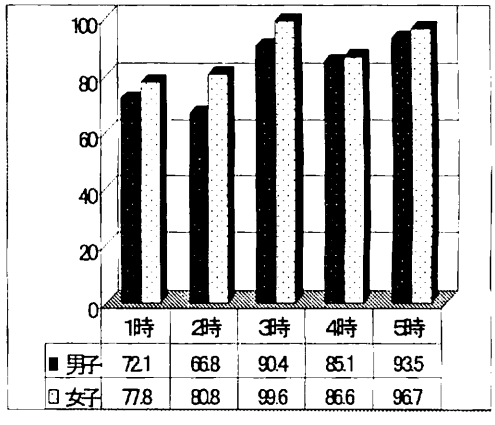
Ⅳ　研究の考察

児童の心と体をほぐし，リズムダンスを楽しむことができたか。

1　研究仮説の検証

(1)　選曲とのりのり得点

心と体をほぐし，リズムダンスを楽しんでいるかを検証するため，毎時間終了後に，百点満点で「のりのり得点」を自己評価させた（図１参照）。第１時は，体ほぐしの運動を十分に行い，選曲も児童の好きなアップテンポの曲を使用した。そのため，ほとんどの児童は 90 点以上の評価をつけ，楽しんでいる様子が伺えた。第２時は，めあて①の場面でスローテンポではあるが児童の好きなエイサーの曲を取り入れた。しかし経験がないためどう動いていいか分からず，棒立ちしてしまう児童がいた。また，サンバでもスローテンポの曲を取り上げたために男子が動けなくなってしまった。その結果，男子の得点が低くなった。この反省を踏まえて，第３時は事前に数曲聞かせた中から，児童の好きな曲だけを取り上げた。その中で一番人気のある曲を最初に使用することで，のりがよくなり，スムーズに授業をスタートすることができた。第５時は，自分の好きな曲で踊るということもあり，声を出したり，跳んだり，はねたり，終始笑顔でグループのダンスを創作していた。ほとんどの児童が満点を付けていたが，練習したときの半分しか発表できず，悔しい思いをした児童もいて，数名は低く評価していた。これは，リズムダンスの技術が向上し，リズムダンスに対する思いが高まったことの表れとも捉えられる。適切な曲の選定は，リズムダンスを楽しむ重要なポイントの一つであると言える。



	1時	2時	3時	4時	5時
■男子	72.1	66.8	90.4	85.1	93.5
□女子	77.8	80.8	99.6	86.6	96.7

図１　のりのり得点（１～５時）

(2)　場の設定

①　体育館を４つのエリアに分ける(ﾛｯｸｴﾘｱ, ｻﾝﾊﾞｴﾘｱ, ﾋｯﾌﾟﾎｯﾌﾟｴﾘｱ, 沖縄ｴﾘｱ)

４つのエリアを全て回ることは，体育館いっぱいを使って踊ることになり，場や空間の開放ができたことで心と体をほぐした。また，めあて①で前奏が始まると「次はサンバだ。」とサンバのエリアに進んだことから，リズムの違いを理解していることが分かった。

②　バンダナやまめしぼり等で場の雰囲気を盛り上げる。

リズムダンスの授業は，赤白帽ではなくバンダナやまめしぼりを巻くことにした。まめしぼりを小道具に使うなど，効果的に活用していた。また，ダンスカーニバルの日は体育着ではなく選曲に合った服を着てもよいことにした。どのグループも積極的に衣装を考えて雰囲気を盛り上げていた。

③　体育館中央に簡易舞台を設置し，交流会ではその上で踊らせるようにする。

ダンスパーティーを盛り上げるために簡易舞台を設置した。第１時は設置しなかったため，リーダーとなって中央に出る際，躊躇する児童がいた。設置した第２時からは，恥ずかしがらずにスムーズに舞台に上がっていた。舞台の上で踊ることが楽しいという感想も多かった。

④　次時の導入で意欲付けの場を設定するため，学習カードに「今日のＭＶＰ」を書かせる。

導入で前時のＭＶＰを発表することで，意欲付けにつながった。また，ＭＶＰに選ばれた児童の動きを参考にする子もいた。「ＭＶＰに選ばれてよかった」「ＭＶＰになりたかった.」等の感想からも，意欲を喚起するだけでなく，さらに技術を向上させる上でも効果的だったと言える。

２　アンケート結果から見る児童の変容

事前アンケートでは，「リズムダンスが大好き」という児童は０％であった。しかし，毎時間授業を重ねるごとに児童の意識が変容し，楽しく活動する様子が見られた。事後アンケートでは「大嫌い」と答えた児童がいなくなり，逆に「大好き」が 44 %に増えた。そして，好き領域（大好き・好き）が 88 %と，大幅に増加した。また，学期末のお楽しみ会で「ダンスパーティーをしたい」という多くの意見からプログラムに組み込んだことからも好きになったことが分かる。

以上の結果から，曲の選定や場の工夫などの教師の支援により，児童は心と体をほぐし，リズムダンスを楽しんだと判断できる。

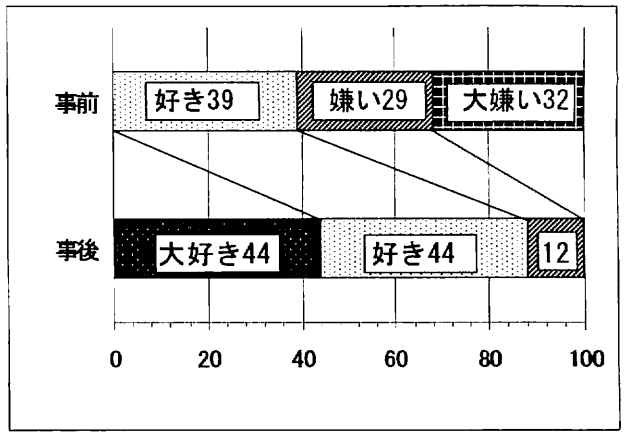


図２　リズムダンスアンケート　（事前・事後）

Ⅴ　研究の成果と課題

１　研究の成果

(1)　リズムダンスへの抵抗感が薄れ，リズムダンスが好きになった児童が増えた。

(2)　児童なりにリズムの違いを意識し，仲間と踊りを工夫できるようになった。

(3)　児童がのりやすい音楽を選曲し，リズムダンス用のＣＤ・ＭＤを作成することができた。

２　今後の課題

(1)　リズムダンスにおける各学年に応じた学習内容とその指導法

(2)　リズムダンス単元の年間指導計画への位置づけ

〈 主な参考文献 〉

村田芳子著　　『楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス』　　小学館　　2002 年